

延岡市立東海小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

教科等	学習到達度調査結果にみる課題
全体	国語、社会が県の平均点を下回っており、学習指導の工夫改善が特に必要である。
国語	叙述に即した読み取り、丁寧語等の言葉についての知識・理解、ローマ字の定着が不十分であり、言葉についての基礎的・基本的事項の指導の徹底が必要である。
社会	地域の人々の生活を支えるもの、都道府県の様子についての知識・理解、思考・判断が不十分であり、地域素材や資料の充実及び活用、学習内容の理解度の確認、日常生活における社会的事象に目を向けさせる指導等の工夫改善が必要である。
算数	図形、量と測定の知識・理解が不十分であり、学習内容の理解度の確認をもとに定着・習熟を図っていく必要がある。
理科	地球と宇宙、生物とその環境など、観察・実験をもとにした科学的な思考、自然事象についての知識・理解が不十分で、観察・実験の目的や観点、結果をもとにしたまとめや確認などの学習指導を工夫していく必要がある。

(2) 意識調査結果からの課題

観 点	学習意識調査結果にみる課題
全体	学びの基礎力は、県平均とほぼ同様な傾向を示しているが、生きる力においては、問題解決力、社会的実践力、心の豊かさが県平均を下回っており、主体的に考え責任をもって行動しようとする態度の育成が課題である。
学びの基礎力	学習スキル、学習定着のための方略、自宅学習習慣、学習のけじめ、学習環境の整備において、県平均を下回る項目がみられ、学習規律の徹底や学習習慣の形成などの指導の工夫改善が必要である。特に、見直しを確実に行うこと、まちがいをやり直すこと、学習したことを復習することの指導の徹底を図る必要がある。
生きる力	問題解決力、社会的実践力、心の豊かさにおいて、県平均を下回る項目が多くみられ、学び方や自分の考えのまとめ方、社会問題に対する見方・考え方、自らの行動に責任をもつ態度、他者の考えや意見を尊重する態度を高めていく必要がある。
指導・活動	学びの基礎力における自ら学ぶ力、学びを律する力、生きる力における問題解決力、社会的実践力、心の豊かさについて、児童の意識からは、学校での指導・活動が不足しているという傾向がみられ、学校における指導の工夫改善と徹底が必要である。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

- 楽しく分かる授業づくりや朝自習等の工夫により、基礎学力の向上に努める。
- 少人数指導(算数)、「わくわく算数学習」をはじめとして、個別指導の充実に努める。
- 朝の読書活動の充実により、豊かな情操と言語力の育成に努める。
- 立腰教育の推進し、学びへの姿勢づくりに努める。
- 校内研修の充実を図り、教職員の資質向上に努める。
- 主題研究における学習指導の実践的研究により、教師の授業力・指導力の向上に努める。

(2) 教育課程内の取組

取組事項	取組の内容と方法	備 考
楽しく分かる授業づくり	表現活動を生かした学び合いの場を設定するとともに、学年の発達段階に応じた発表の仕方、ノートのとり方などの基本的な学習訓練を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題研究により共同研究を進める。 ○ 国語、算数を中心に実践する。 ○ 全校を挙げた共同実践を行う。
授業中の確認問題(確認テスト)	国語、算数、社会、理科の授業における確認問題(確認テスト)を学年単位で作成し、形成的評価として、授業の内容に応じて実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語、算数…全学年実施する。 ○ 社会、理科…3～6年で実施する。 ○ 授業の終末段階に実施する。
立腰教育の推進	授業と休み時間のけじめをつけさせ、集中して学習に取り組もうとする意欲・態度を高めるために、授業のはじめと終わりに立腰を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立腰…腰骨を立てること ○ 三息法(1分間に3呼吸)を取り入れてもよい。
学習指導の実践的研究	国語、算数における指導方法の工夫改善の手立てを班別研究で具体化し、個人研究において実践化し、授業の充実に図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人の研究授業は自主公開とする。 ○ 班別に事後研究を実施する。 ○ 実践についてはレポートをまとめる。

(3) 教育課程外の取組

取組事項	取組の内容と方法	備考
読書活動の推進	毎週木曜日の朝、「読書の森」の時間を設定し、朝の読書を20分間実施する。	○ 読む本は、事前に準備しておく。 ○ 月1回の読み聞かせ(ボランティア)
漢字・ローマ字検定	毎週金曜日の朝自習後に、学年で作成した検定問題を5分間で実施する。	○ 新出漢字を中心に問題を作成する。 ○ 検定問題は学年研修で作成する。
わくわく算数学習の工夫	毎週水曜日の朝、「わくわく算数学習」の時間を設定し、個に応じた指導を行い、習熟を図る。	○ 授業や宿題とのつながりを考慮する。 ○ 学年で共通の内容・進め方で実施する。

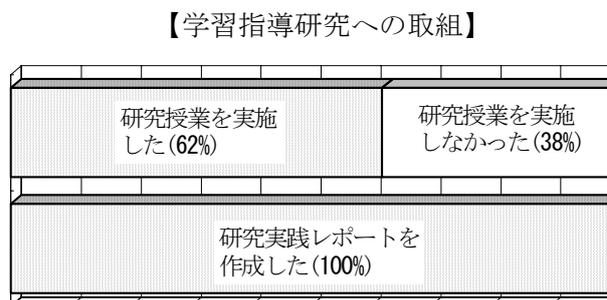
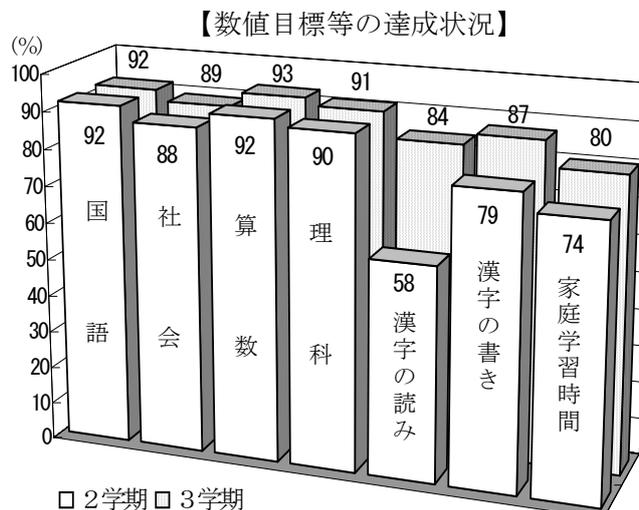
(4) 保護者・家庭、地域との連携

取組事項	取組の内容と方法	備考
学年での宿題等の作成と活用	授業で使う確認問題(確認テスト)や漢字検定問題、「わくわく算数学習」の問題とのつながりを考慮し、宿題等を学年で吟味・作成する。	○ 内容については学年で吟味する。 ○ 学年で共同作成したプリント等を進度や児童の状況に応じて各学級で活用する。
「家庭学習の手引書」の活用	延岡市教育委員会が作成した「家庭学習の手引書」を活用した授業及び懇談を実施する。	○ 参観日を中心に実施する。 ○ どの学級も年間1回は必ず実施する。
「生活ふりかえりカード」の活用	食事、手伝い、学習準備、家庭学習時間などを項目とした「生活ふりかえりカード」を学年ごとに作成・配付し、活用させる。	○ 毎月第1週に「生活ふりかえり週間」を設定して取り組む。 ○ 保護者・教師がコメントを記入する。

3 成果と課題(今後の取組を含む)

(1) 取組の成果

- 国語、社会、算数、理科の授業の中で確認問題(確認テスト)を実施することにより、児童に基礎・基本の事項を確実に身に付けさせることができてきている。
- 校内漢字検定・ローマ字検定を実施することにより、児童の学習意欲を高めるとともに、当該学年の漢字の読み書きの定着がよくなってきている。
- 朝の読書の時間を設定することにより、児童が意欲をもって読書に取り組むようになってきている。
- 延岡市教育委員会作成の「家庭学習の手引書」を活用した授業や懇談を実施することにより、家庭学習に対する保護者の意識も高まってきている。
- 「生活ふりかえりカード」を活用し、基本的な生活習慣や学習習慣について振り返らせることにより、児童・保護者の意識が高まってきている。
- 班別研究における指導方法の工夫・改善に関する研修と個人研究における授業研究を関連させることにより、教材研究が深められ、指導の手立てに一層工夫がみられるようになった。



(2) 今後の課題

- 学力向上への取組を継続して実践し、知識・理解、技能だけでなく、児童の意欲や態度、学び方、学習習慣等においても一層向上させていく必要がある。
- 学力向上への取組において、学年間・学級間に差が生じないように、学校全体での共通理解を深め、校務分掌との関連も考慮した組織的・計画的な取組の徹底を図る必要がある。
- 家庭や隣接する幼稚園・保育園・小学校・中学校との連携を強化し、基本的な生活習慣や学習規律の定着についても研究・実践に取り組んでいく必要がある。